

課題名 44. キウイフルーツ花腐細菌病の防除適期

成果の概要  
 (1) 防除適期の検討  
 a 最も効果の高かったのは全期間防除の1区であった。  
 b 生育期防除の1回散布区では開花直前の5月19日散布区が最も効果が高く、次いで萌芽直後の4月9日であった。2回散布区では4月8日、5月19日の2回散布区が最も効果が高かった。  
 c 休眠期防除で最も効果の高かった時期は萌芽直前の3月28日であった。  
 d そこで、萌芽直前、直後及び開花直前の時期を中心に防除体系を組み立てれば高い効果が期待できる。

(2) 秋期防除の効果の検討  
 a 秋期防除の効果は認められるが、萌芽直前、直後散布に比べると劣る。

表1 キウイフルーツ花腐細菌病の防除適期

区	3		4		5		発病率
	4	28	8	19	9	19	
1	○	○	○	○	○	○	3.6%
2	○						26.5
3		○					20.7
4			○				19.6
5				○			28.4
6					○		23.0
7						○	17.6
8			○	○			15.1
9			○		○		13.6
10			○			○	6.6
11				○	○		20.8
12				○		○	18.6
13					○	○	10.7
14							36.0

注) 5/24開花日 3/4~3/28 カスミンボルドー500倍  
 4/8~5/19 アグレプト水和剤1,000倍

表2 キウイフルーツ花腐細菌病の秋期防除の効果

区	薬剂散布月日					全調 査数	発病程度			発病率	発病度	
	11.18	3.28	4.8	4.19	5.9		-	±	+			
1	○	○	○	○	○	98	87	10	1	0	11.2%	2.2
2	○	-	-	○	○	94	76	12	4	1	18.1	5.5
3	-	○	○	○	○	101	87	12	2	0	13.9	3.0
4	-	-	-	○	○	105	83	14	7	1	21.0	6.5
5	-	-	-	-	-	102	63	24	1	3	38.2	12.7

注) カスミンボルドー 500倍(11/18, 3/28)  
 " 1,000倍(4/8)  
 カスミン液剂 400倍(4/19)  
 ホッコーマイシン 1,000倍(5/9)

(果樹試験場)

成

績

概

要

普及上の留意点